

7月15日～17日の洪水で、 特別防災操作を実施しました

令和5年7月21日

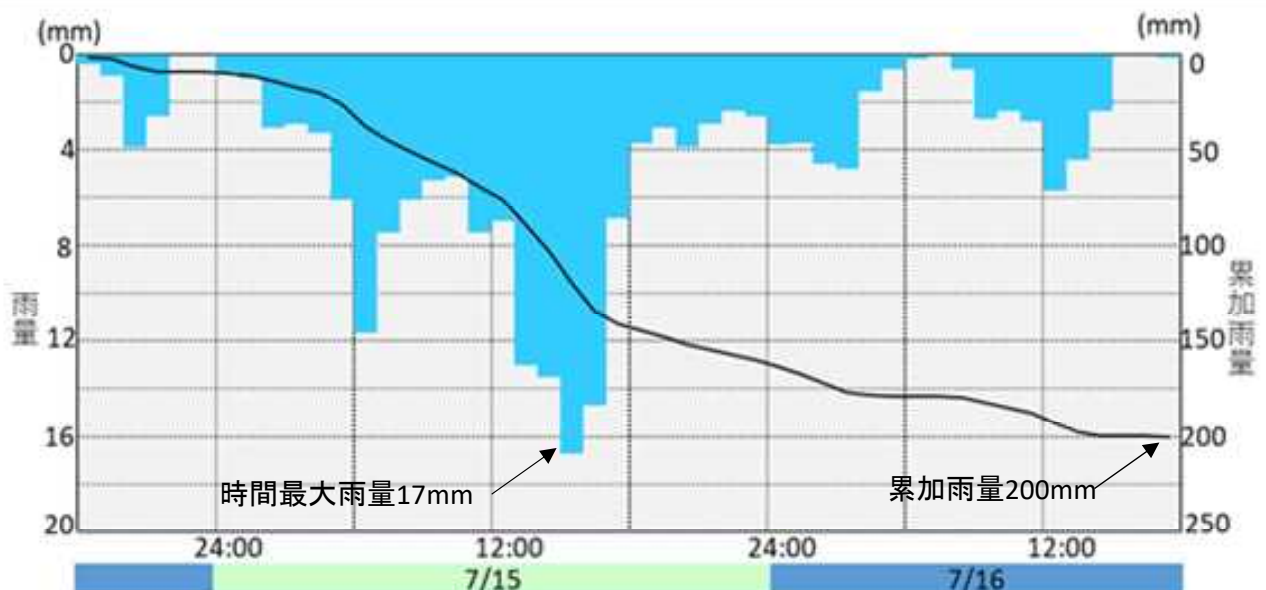
- 玉川ダム流域では、7月14日17時から雨が降り始め、16日20時までの流域平均累加雨量は200mmを観測しました。（図－1）
- 下流玉川の水位や合流後の雄物川本川の水位が氾濫危険水位を超えて上昇するおそれがあったため、通常の洪水調節よりも大幅に流量を抑制する**特別防災操作**（全量カット※ダムに入ってくる水を全てダムに貯め込む）を15日16時30分～17日8時まで行いました。（図－2）
- 7月15日の洪水調節開始～17日の特別防災操作終了までのダム貯留量は、過去最大の4,127万m³（東京ドーム約33個分）に達しました。

「特別防災操作とは」

下流河川の水位上昇軽減を図るため、今後の降雨予測を確認しながら、ダムに貯め込む水の量を増やし、ダムから流れる水の量を減少させる操作をいいます。

下流河川への効果については、現在精査中です。

（図－1）流域雨量グラフ



(図-2)ダム運用グラフ

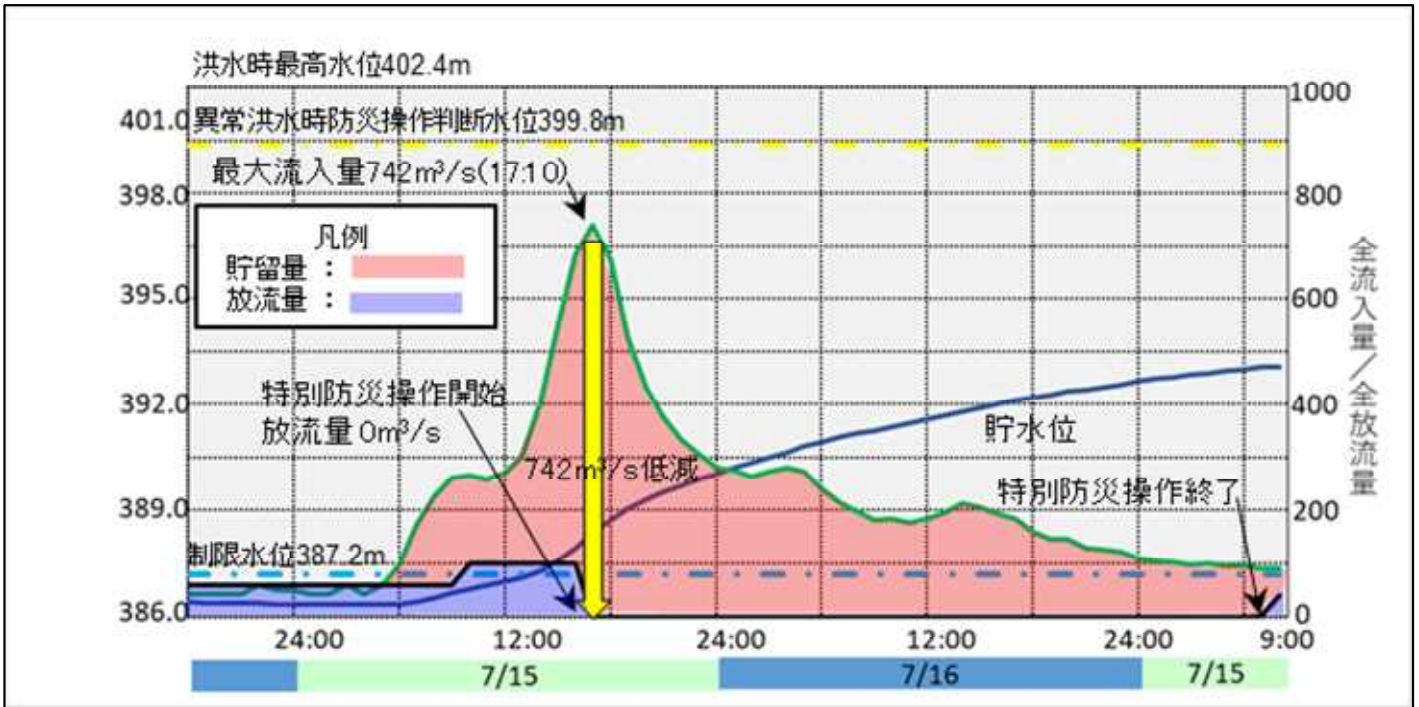


図-2は、ダムへの流入量(緑線)、放流量(黒線)、貯水位(青線)をグラフ化したものです。

ダムからは発電と水位維持のためのゲート放流を行っていましたが、15日16時30分より特別防災操作により、放流量を0m³/sとし、河川の水をダムへ貯留しました。その後、下流河川の水位が低下したことから17日8時に特別防災操作を終了しました。

この間、ダムへ貯めた水の量(貯留量)は、約4,127万m³と過去最大の貯留量となり、貯水位も6.59m上昇しました。(写真-1)

ダム貯水池の洪水前後の様子(写真-1)



洪水前7/14 9時
EL386.51m



最高水位時7/17 10時
EL393.10m